

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年後期 2部3年前期	保育実習指導Ⅰ（施設）	担当教員	
サブタイトル	施設支援を理解し実践力を高める	単 位 数	2
授業形態	演習・講義形式		
開講時期	1部1年後期 2部3年前期	出席要件	4／5以上
到 達 目 標			
1. 施設実習の意義と目的を理解する。 2. 施設の概要を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 児童や利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習、事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
1. 保育の専門知識を習得し、実践に役立つ基礎を作る。 2. 児童や利用者の個々の特性を多面的に捉え、ニーズにあった支援方法を構築することができる。 3. 児童福祉、障害者福祉についての理解を深めることができる。			
授 業 の 方 法			
施設実習に向けて、実習に際しての諸手続きの遂行と、これまで学んできた乳幼児・児童の養護、福祉、発達、障害等についての授業内容を基本として、実習に向けてそれらが実際の現場で統合実践出来るように学習を進める。 現地施設見学、乳児院、児童養護施設、知的障害児施設、肢体不自由児施設、在宅介護の視聴覚教材を活用し、入所型施設のイメージを構築しながら 施設保育士の役割について理解する。 実習後には実習の内容と自分自身を振り返り、今後の課題や学習目標を明確にできるようにする。			
テキスト・教材・参考図書			
保育実習の手引き・施設実習ノートは必ず毎回、学内施設実習オリエンテーション時には持参すること。			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
学内施設実習オリエンテーション15回の授業に対する、意欲、姿勢、態度、理解度、目標到達度を総合的に判断する。		レポート	30%
		実習事前・事後課題	30%
		実習録の提出	40%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
学内オリエンテーションに必ず全て出席すること。 やむを得ぬ理由により、欠席、遅刻する場合は事前に担当者まで申し出る。 担当者と補講日を相談の上、補講届けを3日以内に提出すること。			

科目名 保育実習指導 I (施設)

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス 授業の目的、施設実習の意義と目的、概要 ノート作成	施設実習への心構え 授業の目的理解
2回	施設種別理解 (1) 知的障害児者施設 レポート①	知的障害児者への基本 理解・支援の理解
3回	施設種別理解 (2) 児童養護施設 レポート②	児童養護施設の一日の 生活の流れ 支援のイメージ化
4回	施設種別理解 (3) 肢体不自由 在宅ケアと入所型・通所型ケア レポート③ 施設見学オリエンテーション	肢体不自由児への入所・通所 型ケアのイメージ化 見学会前の準備、心構え
5回	施設見学会 (1) 入所型施設、支援の概要について	入所型施設の理解、支援 の概要
6回	施設見学会 (2) 支援の様子を見学する 見学レポート④	入所型施設の入所児者 の生活、支援の理解
7回	施設種別理解 (4) 乳児院・母子生活支援施設 レポート⑤	乳児院における保育者 の役割のイメージ化
8回	障害児者の基本的理解 レポート⑥	支援とは QOL 障害児 者理解
9回	配属事前面談・個人表・事前レポート (施設の概要と目標) ⑦	施設の概要、心構え、自己の 課題
10回	実習録 (1) 日誌 (考察・感想・反省)、実習目標の設定 個別支援の必要性理解。配属前事前面談	観察、考察、目標設定、 個人と集団への支援
11回	実習録 (2) 個人の行動記録・部分実習・研究課題について	個人情報保護について、 個人の行動記録、環境、生 活空間の理解
12回	施設配属別指導 種別レポート⑧	事例に学ぶ種別理解、ス キルの獲得、要点理解
13回	実習直前指導 記録の閲覧、緊急連絡手順、諸注意事項	健康管理、緊急連絡手順 実習のイメージ化
14回	巡回訪問とスーパービジョン 支援の現場における自己課題と向き 合い目標達成に向けて再構築を行う	自己課題の遂行 目標の再構築
15回	反省会 実習の振り返りとまとめ、体験共有、気持ちの整理、新たな 発見のためのグループシェアリング 実習後レポート⑨	体験レポート発表、自己 理解と新たな課題設定